

# 観光宮崎の経済効果の試算と考察

The Ripple Effects of Tourism Revenue on the Economy in Miyazaki

浜野 崇好

宮崎を訪れる県外およびアジア諸国の観光客は、地元経済にどのくらいの経済効果を与えているのだろうか。宮崎県が調査にもとずいて公表している観光客の消費金額は、一人あたり1万円程度となっているが、一口に観光客と言っても、名所見物だけでなく、自らスポーツを楽しむもの、会議などの出張を兼ねるものなどさまざまな形態があることから、複眼による調査研究が必要ではないか。こうした問題意識から99年11月、宮崎市内の観光施設を訪れた観光客を対象にアンケート用紙に記入してもらう形で宮崎での消費金額を中心に調べたところ、有効回答533通の平均消費額は、県外からのフリーの観光客(ツアー以外)の場合は、一人平均5万7000円余であった。ツアーに参加して宮崎にやってきた観光客が宮崎で消費した金額は平均2万3000円余、さらに台湾、香港などアジア系の観光旅行者は、ツアー料金以外に約7000円を消費していた。

調査の時期は、ちょうど全国的によく知られたゴルフのトーナメントが行われていたことから、この関係者やゴルフ・ファンの消費金額は高めになった可能性があるが、それにしても県の調査をかなり上回るものである。これをもとに県経済への波及効果を考察すると、低めに見積もっても、1500億円を越え、県内総生産の農業部門の額に匹敵する規模になる。これは一つの試算に過ぎないとしても、観光の経済効果は、県公表の金額より大きいと推測される。

キーワード：フリーの観光客、ツアー客、アジア系観光客、観光消費金額、波及効果、

## 目次

- |              |             |
|--------------|-------------|
| I はじめに       | III 観光の波及効果 |
| II アンケート調査結果 | IV 宮崎観光の課題  |
| 1. 調査対象      |             |
| 2. 消費金額      |             |

## I はじめに

宮崎はいま、県をあげて観光を地域活性化の大きな柱にしようとしている。かつて昭和40年代(1960年代後半～70年代前半)は、南国ムードと新婚旅行のメッカとして観光ブームを経験したが、

75年をピークにして観光客は減少ないし横ばいの傾向に変わった。その後80年代後半から再び徐々に増え始め、バブルの波に乗ったリゾート法による大型リゾート施設、シーガイアが第三セクター方式で建設されたこともあって、96年には県の調べで1,217万人と70年当時の2.2倍の観光客が訪れた。しかし、大型リゾート施設の中核であるオーシャンドームは当初の目論見とはほど遠い集客力で資金繰りが苦しくなっている。99年度ついに、県資金60億円が導入されることになった。公的資金の導入に対しては、県民から批判の声も強く出ており、改めて宮崎の観光の在り方が私達一人ひとりに関わる問題として提起される形になっている。

いったい、観光客はどのくらいの金額を消費しているのか。その波及効果はどうか。この点については宮崎県の調査があるが、一口に観光といっても、いわゆる名所見物から、イベントやスポーツへの参加、業務や会議を兼ねた観光などさまざまな態様があり、複眼で捉えないと実態を明らかにすることは難しいのではないかと。こうした問題意識から、実際に宮崎を訪れる観光客を対象にアンケート調査を実施して研究することとした。

アンケート調査は、99年11月下旬に実施した。具体的な調査方法は、宮崎市のシーガイア・グループの各ホテルおよび青島パームビーチ・ホテルにアンケート用紙を置かせてもらい、随時記入をお願いした。ただ、この方法では回答率がきわめて低かったため、週末ごとに3日間、オーシャンドームの前で、延べ27人の調査員（本学学生）を配置し、主として県外からの観光客とアジア系観光客にアンケート用紙（日本語、中国語、韓国語、英語）を配付して記入をお願いした。その結果、総計533人から有効回答が寄せられた（うち日本人は464人、アジア系は69人）

また調査データの集計は、本学の金子研究室に依頼し、データ分析は浜野、金子両研究室が共同で行った。集計の際、観光消費金額の回答に幅があるものは、中間の数値とした（例2～3万円であった場合は2.5万円とした）

## II アンケート調査結果

### 1. 調査対象

調査対象となった533人の内訳は日本人が464人（ツアー以外のフリーの観光客が326人、ツアー客が138人）それに、アジア系観光客は台湾27人、香港16人、シンガポール14人、韓国12人の合わせて69人である。

日本人のうち県内客は、対面調査の対象からは省略したため、97%は県外客で、55%は九州以外からの観光客であった。旅行相手は日本人の場合、家族が27%でもっとも多かったが、数人のグループや団体も21%ずつあった。男女別では、「宮崎はどちらかという男性向きの観光地」という見方があるが、この調査でも、日本人観光客のうち57%が男性で、この見方を裏付ける結果になった。年代については、一番多いのが20代で、30代がこれに続き、20代と30代をあわせると全体の60%を占める。以下、年齢層が上がるにつれて減少している。

## 観光宮崎の経済効果の試算と考察 (浜野 崇好)

旅行目的をフリーの旅行者についてみると、全体の63%が観光目的の旅行であるのは当然としても、スポーツとくにこの時期はゴルフのトーナメントを見るのとプレーを兼ねた人が多く18%を占めた。宮崎は春先にもプロ野球のキャンプ見物の旅行者や、アマチュアの野球・サッカーの合宿も多く、狭い意味の観光だけにとどまらない傾向がみられる。

旅行先として宮崎を選んだ理由でもっとも多かったのは、具体的に用意した設問の中では「有名な観光地だから」というものが日本人、アジア系とももっとも多かった。なかでもアジア系の観光客の場合は全体の半分近くを占め、これと「ツアーの企画に入っていたから」という二つの回答で90%以上になった。これに対し、日本人の観光客のほうは「その他」が全体の半分弱あった。ほとんどがその目的を具体的に書いていないが、比較的多かったのは、設問になかったオーシャンドームを目当てにしたものや、ゴルフの観戦とプレーであった。

### 2. 消費金額

観光消費金額の調査では、宮崎県内での消費に焦点を当てることとしたが、ツアー参加者は、日本人もアジア系の旅行者も、あらかじめ旅行業者に支払っているツアー料金のなかに、宿泊したホテル代はもちろん、食費、場合によっては、オーシャンドームの入場料も含むものがあり、宮崎での消費金額はつかみにくい。したがって、ツアー料金とは別に県内で消費した金額を記入してもらいこれを集計したが、正確に言えば県内消費額のすべてではない。

まず、一人当たり平均の消費額を旅行形態別にみると、ツアー以外のフリーの観光客の場合は5万7,492円、ツアー客は2万3,379円それに、アジア系観光客は7,050円となった。

宿泊日数は、どの旅行形態でも1～2泊が70～80%を占めて圧倒的に多くなっており、いうまでもなく消費金額はこの滞在期間中のものである。

支出項目別の内訳を、記述にムラがないフリー客について集計すると、宿泊費（食費を含む）が39%で一番多く、次いで県内交通費25%、娯楽費など21%、みやげ代15%となった。

ちなみに、宮崎県が公表している96年の観光客の消費金額は一人当たり1万円となっていて、この調査の結果と大きく食い違う。この調査の時期の大半が有名なゴルフのトーナメントと重なっていたこと、調査対象のフリーの日本人のうち153人が1泊2万円近いホテルに宿泊した人であったことから、高めの消費金額になった可能性があるが、それにしても、ツアー客の消費金額もツアー料金に含まれる宿泊費を除いて、県の調査の2倍以上となっており、観光の実態は、複眼で捉える必要があることを裏付ける結果となった。スポーツ振興やコンベンションを軸にした観光客誘致は、経済効果が大きいことを改めて痛感させられる。

### III 観光の波及効果

観光客の消費金額からその波及効果を計算する場合、計算の基礎となる消費金額の捉え方が問題

となるが、さきに触れたように、この調査にもとづくフリーの観光客の消費金額は、時期的に高めになっている可能性があるため、これを使用せず、代わりにツアー客の平均一人2万3,379円を計算の基礎にした。ツアー客は宿泊費がツアー料金に入っており、正確には分からないが、宮崎市内のホテルに聞くと、だいたい一泊8,000円程度とみればそう違わないという。さらに平均1.3泊くらいの滞在ということも考慮すると、県外から訪れた日本人の消費金額は、3万3,000円余とみることができる。

一方、宮崎市を訪れた県外客は98年で348万人（宮崎市調べ）となっている。県外観光客の経済波及効果は、96年の県の産業連関分析を用いて計算すると、経済構造に大きな変化がないとすれば、観光消費額の1.34倍がその消費による県内産業の生産誘発を含めた額となる。

〔宮崎市を訪れる県外客の波及効果試算〕

348万人 × 33,000円 = 1,148.4億円……………観光客の消費金額

1,148.4 億円 × 1.34 = 1,538.9億円……………県内産業の生産誘発効果を含む

ここで出てきた1,500億円という額は、96年度県内総生産の計算に使われる農業部門の生産額にほぼ匹敵し、サービス産業の5分の1に達する規模である。もっとも、農業（畜産・養蚕を含む）の中間投入分を含めた生産額は3,800億円を越す規模であり、単純な比較はできないが、それにしても、この計算には、宮崎市を訪れた県外観光客しか入っていない。県内観光客や宮崎市以外を訪れる観光客も含めて計算すると、少なくとも、県が94年の県外観光客の消費額を812億円とし、その生産誘発額を考慮して1,060億円としているのより、大きな経済効果が出ているのではないか。さらに、雇用所得への波及効果など二次的な波及効果も考慮すると、観光の経済効果は相当大きな規模になるとみられる。

台湾、香港、シンガポールなどからの観光客の消費金額は、ツアー料金を除いて7,000円程度であったが、これらの客は1泊6,000円程度のホテルに泊まり、娯楽費の一部がツアー料金に含まれるのが普通だということから、一人当たり1万5,000円程度の消費金額と推定される。宮崎市を訪れたアジア系の観光客は年間、約18万人となっていることから、同様に試算すると、その波及効果を考慮した額は36億円くらいになる。

#### IV 宮崎観光の課題

宮崎の観光客には、リピーターが少ないと言われるが、このアンケート調査によると「今後また宮崎を訪れたいか」という問いに対し、日本人の80%以上、アジア系の70%以上が「はい」と答えしており、「どちらとも言えない」という人の中には、いま着いたばかりで分からないという人も少なくなかった。また、自由記述のところでは、宮崎の自然条件の良さを指摘するものが多くみられたほか、宮崎の人やサービスについても批判的な意見はほとんどなかった。

しかし、施設の利用料金に対する不満や、交通の不便さ、さらにシーガイア周辺にもっといろいろ

ろな観光施設がほしいなどの点を指摘する意見もみられた。

またこの調査では、宮崎に一泊もしない観光客がフリー客で18%、ツアー客で8%あった。調査中にたまたまインタビューした一行は、鹿児島島の温泉で一泊し、宮崎はシーガイアなどを見て通過するだけと言っていた。宿泊しないと県内の消費金額は増えそうにない。この調査でも1泊した人と0泊の人とでは消費金額に2.7倍の開きがあった。素通りの観光客をどう引き止めるかも大きな課題の一つであろう。

この調査で男性の客が多かったことはさきに紹介したが、これは別の見方をすれば、宮崎は女性にあまり人気がないのかもしれない。日本人客の性別の県内の消費金額を比較すると、男性が4万4,339円、女性が5万2,963円となっていて、女性観光客のほうが消費金額が多い。女性のほうがみやげものなどを購入する率が高いことは、よく指摘される所であり、女性に魅力のある観光資源の開発も今後の課題であると思われる。

観光業界では、98年に不況の影響が大きかったが、その後、回復に向かいつつあるといわれている。時間的余裕のある元気な退職者の観光誘致も今後の課題と言えよう。しかし、国内の観光客が今後どれだけ増やせるであろうか。

アジアからの観光客は、98年は台湾と香港中心に18万人弱であったが、今後、中国本土から日本への団体旅行が解禁になって本格化すれば、地理的にも近い九州を訪れる中国人観光客が飛躍的に増大する可能性がある。すぐ実現しなくとも今からその受け入れを考えておく必要もあるのではなかろうか。(以上)

## 参考文献

- (株) 食品流通情報センター編集・発行『余暇・レジャー総合統計年表99-00』
- (財) 日本交通公社『JTB 宿泊白書99』JTBR国内旅行企画部発行
- (社) 日本旅行業協会 (1994) 『観光産業の経済効果に関する調査研究』
  - 宮崎県統計課資料 (1996) 『あなたもできる産業連関分析』
  - ” (2000.3) 『宮崎県経済の構造』
- 宮崎県観光リゾート課 (1999) 『宮崎県観光要覧』
- 宮崎市観光統計 (1998)

## アンケート調査回答集計

### 1. 出身地（国籍）

・有効回答数：総 計 533

〔内訳〕 日本人 464〔宮崎県内3%、九州内他県42%、九州以外55%〕

〔ツアー138フリー326〕

アジア系 69〔台湾27、香港16、シンガポール14、韓国12〕

### 2. 旅行相手（日本人）

(1) 家族 27% (4) 夫婦 15%

(2) 数人のグループ 21 (5) ひとり 4

(2) 団体 21 (6) その他 12

### 3. 旅行目的（日本人でフリー326人のうち）

(1) 観光 63%

(2) スポーツ 18

(3) 用務を兼ねた観光 6

(4) その他 13

### 4. 宮崎での宿泊数

	0泊	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊以上	未記入	計
〔フリー〕	18.4%	43.3%	26.7%	6.4%	1.2%	0.3%	3.1%	0.6%	326人
〔ツアー〕	8.0	61.6	29.0	0.7	0	0.7	0	0	138
〔アジア系〕	4.4	68.1	14.5	10.2	0	1.4	1.4	0	69

### 5. 宮崎での宿泊先（フリーの宿泊者264人のうち）〔H=ホテル〕

(1) H. オーシャン45 153人 平均消費金額 82,094円

(2) コテージヒムカ 40 44,853

(3) シーサイドH. フェニックス 19 83,974

(3) サンH. フェニックス 19 56,974

(5) 宮交エアラインH 6 107,233

(6) 宮崎観光H. 5 54,440

(5人以上宿泊者が居たホテル)

### 6. 宮崎での移動

(バスを定期と貸切りに分けなかったなど設問に問題があり、集計を省略した)

### 7. 宮崎での消費金額

○一人あたり平均：〔フリー〕 57,492円

〔ツアー〕 23,379 (ツアー料金を除く)

観光宮崎の経済効果の試算と考察 (浜野 崇好)

[アジア系] 7,050 (同上)

○フリーの人の支出項目別内訳 (一人平均) :

・交通費 (県内)	14,336円	構成比	25%
・宿泊費	22,166		39
・みやげ代	8,445		15
・娯楽など	12,235		21
合計	57,182		100

(注1) 支出内訳を記入していない回答があり、上の一人平均とは一致しない

(注2) ツアー参加の日本人とツアーが多いアジア系の場合は、食費や施設入場料をツアー料金に入れているものとそうでないものがあり、不揃いなので、データ分析を省略した

8. 宮崎を選んだ理由

	日本人	アジア系
① 有名な観光地だから	23.9%	46.4%
② ツアーの企画にあった	13.2	44.9
③ 費用が安いから	3.0	1.5
④ 以前来てよかった	8.7	0
⑤ その他	47.8	1.5
⑥ 未記入	3.4	5.7

(注) 「その他」の回答の中には、オーシャンドームなどの施設があるからというものが多かった

9. 宮崎再訪問の意向があるか

	日本人	アジア系
① はい	81.4%	71.4%
② いいえ	1.7	0
③ どちらとも言えない	14.1	22.9
④ 未記入	2.8	5.7

(注) 「どちらとも言えない」という回答の中には、「今着いたばかりなので」というものがあった

※宮崎の印象 (自由記述)

(1) 自然条件に関するもの 26件

(例) きれいな、暖か、のどか、素朴、青い空、緑、空気がおいしい、明るいなど  
批判的なのは「ほこりっぽい」1件だけ

(2) 人工的条件 18件

(例) 空港・ホテルが良い、道が広い、自然と文化が調和、清潔、ただし交通の便が悪い、案内標識が少ない、シーガイアの料金・味などに批判も

(3) 人とサービス11件

(例) 親切、やさしい、心が温か、すばらしい、美人・細い人が多い、批判は「挨拶が少ない」の  
1件のみ

(4) 産物等2件

(例) 焼酎と地鶏を褒めた2件のみ

(5) その他7件

(例) 「シーガイア周辺にもっとたくさんの観光施設がほしい」「ゴルフの空き時間に手近に行ける  
ところがほしい」「リラックスするには非常に良い」など

記入者について (有効回答以外を含む)

○ 男女別

	日本人	香港	韓国	シンガポール	台湾
男	255	10	4	8	9
女	192	5	3	5	16
未記入	22	1	5	1	2
	469	16	12	14	27

○ 年代別

	日本人	香港	韓国	シンガポール	台湾	アジア
20代	152	8	3	5	11	27
30代	128	5	1	5	9	20
40代	91	3	1	4	3	11
50代	69	0	1	0	1	2
60代	21	0	3	0	1	4
70代	2	0	2	0	0	2
70代以上	1	0	1	0	0	1
未記入	5	0	0	0	2	2
	469	16	12	14	27	69



観光宮崎の経済効果の試算と考察 (浜野 崇好)

クロス集計

○ 日本人の旅行目的別消費金額 (ツアー料金も含む)

	人 数	合 計	一人当たり
観 光	325	19,359,950	59,569
ス ポ ー ツ	68	4,715,440	69,345
用務を兼ねた旅行	24	1,757,150	73,215
そ の 他	50	3,028,810	61,500
未 記 入	2	123,000	61,500
	469	28,984,350	61,800

○ 性別の消費金額 (日本人1人平均、ツアー料金含まず)

- ・ 男 (255人) 44,339円
- ・ 女 (192 ) 52,963

○ フリーの日本人の宿泊日数別および年代別平均消費金額 (1人平均)

- ① 宿泊日数
- |    |     |         |
|----|-----|---------|
| 0泊 | 71人 | 19,117円 |
| 1  | 229 | 51,325  |
| 2  | 129 | 80,573  |
| 3  | 22  | 83,210  |
- (4泊以上は省略)

② 年代別20代60人67,867円

30	141	45,688
40	87	38,761
50	21	144,290
60以上	15	(以下サンプルが少ないため省略)

○ 九州内 (県内を除く) 外の旅行者の県内での平均消費金額比較 (フリー+ツアー)

- ・ 九州内の旅行者 36,820円
- ・ 九州以外の旅行者 53,436

1999年11月

## アンケート調査のお願い

宮崎公立大学人文学部  
浜野研究室 (tel 20-4830)  
担当 田中淳子

宮崎によくおいでになりました。心より歓迎申し上げます。私どもは観光客が地元にもたらす経済効果について研究しております。貴重な時間にお邪魔して申し訳ございませんが、以下の賞間にお答え下さいますようお願い申し上げます。

1. あなたの出身は？ ( 都道府県) または 国籍 ( )
  2. 誰と旅行中ですか？  
①ひとり ②夫婦 ③家族 ④数人のグループ ⑤団体  
⑥旅行業者ツアー ⑦その他 ( )
  3. 宮崎への旅行の目的は次のうちどれですか？ (3つ以内で選んで下さい)  
①観光 (職場の慰安を含む) ②スポーツ (ゴルフプレー、観戦、野球観戦、釣り、その他) ③用務を兼ねた観光 ④その他 ( )
  4. 宮崎では何泊しますか？  
①泊まらない ②1泊 ③2泊 ④3泊 ⑤4泊 ⑥5泊 ⑦6泊以上
  5. 宮崎での宿泊先は？ ( )
  6. 宮崎での移動にはどのような交通機関を利用しますか？  
①自家用車 ②バス (定期・貸切) ③鉄道 ④タクシー  
⑤レンタカー ⑥その他 ( )
  7. 消費金額についてお尋ねします。(あなた1人について日本円の実額でお答え下さい)  
A、ツアー企画に参加の方へ  
ツアー料金 ( )  
ツアー ( ) 泊 ( ) 日うち宮崎に ( ) 泊 ( ) 日  
※その他についての出費についてお尋ねします。  
食費 ( ) みやげなど ( ) 雑費など ( )  
B、ツアー以外の方へ  
宮崎県内での消費金額をご記入下さい。  
①交通費 ( )  
②宿泊費 (食費を含む) ( )  
③みやげなど ( )  
④娯楽、雑費など ( )  
■ 合計 ( )
  8. 旅行先に宮崎を選んだ理由は何ですか？  
①有名な観光地だから ②ツアーの企画に入っていたから  
③費用が安いから ④以前良かったから ⑤その他 ( )
  9. 今後また宮崎を訪れたいと思いますか？  
①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- ※ 宮崎の観光地の印象をお聞かせください。

※ あなたのことを教えて下さい。

(男・女)

(20代・30代・40代・50代・60代・70代・70代以上)

ご記入ありがとうございました。チェックアウトの際フロントにお返し下さい。